

授業科目名	【Gカリキュラム】 プレゼミ I 【EFカリキュラム】 プレゼミ I	必修	開講年次	【G】 1 【EF】 1	単位数	【G】 2 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-） / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	法学部生としての基礎トレーニング	担当者	法学専門科目担当専任教員			
授業概要	<p><b>【概要】</b> この授業は、これから法学部生として学んでいくために必要な基礎的素養を身につけるための演習です。他の講義を受講中に生じた疑問の解消や、各自が抱える問題（例えば「勉強がはかどらない」など）の解決のためにも、この演習を活用して下さい。</p> <p><b>【到達目標】</b> この科目の受講を通じて… ① 法学／法律学に興味をもつこと ② 学習に必要な基礎的素養を身につけること ③ 疑問点・問題点を放置しない習慣をつけること …を最低限の目標として掲げます。これらの目標に到達することは、法学／法律学と本格的向き合う準備することと言えるでしょう。</p>					
履修条件	特にありません。ただし、指定されたクラスで受講してください。					
教科書・参考書	<p><b>【教科書】 【参考書】</b> 各クラス担当者が必要に応じて授業中に指示・紹介しますが、他の必修専門科目（憲法概論・民法概論など）の教科書を繰り返し読むことや、六法（入学時に購入した『ポケット六法（平成31年版）』など）で法律の条文を確認する習慣を身につけることも大切です。</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p><b>【授業を通じて学ぶ事柄の具体例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律学系科目における授業の受け方とノートのとり方・作り方</li> <li>・ 法律学系科目の予習・復習の方法</li> <li>・ 六法の使い方／判例の読み方</li> <li>・ 法律学系科目を学ぶに際しての図書館の活用法</li> <li>・ 法律学系科目におけるレポート作成</li> <li>・ 法律学系科目におけるプレゼンテーション</li> <li>・ 法律学系科目における試験の準備や答案の作成方法について</li> </ul> <p><b>【授業の形式と素材】</b></p> <p>演習科目ですから担当者からの一方的な説明だけではなく、受講生の皆さんにも「わからないことは質問する」「自分の意見を述べる」といった能動的で積極的な「動き」が求められます。</p> <p>この演習の素材となるテーマは各クラス担当者がピックアップしますが、「新聞記事から法律学の基礎に触れる」「映画を通じて法学を身近に感じる」といった方法もあり得ますので、受講生の皆さんも希望や意見があれば積極的に担当者に伝えて下さい。</p>					
予習復習内容	<p>毎時限に課される課題に関する準備（予習）とその反芻と理解（復習）を行って下さい。</p> <p><b>【予習の具体例】</b> 参考書の指定された範囲の通読や語句確認、発表資料（レジュメ）の作成 <b>【復習の具体例】</b> 配布された資料の再読や不明点の再検討、発表資料（レジュメ）の改訂、質疑応答で回答できなかった部分の再検討と報告</p>					
評価方法	授業への参加姿勢（授業中の発言や、他の履修者の発言を傾聴する姿勢など）、課題やレポートの提出状況、小テストの結果など、各クラス担当者から課されるすべての事柄に対する受講生の「動き」を教員が点数化して評価します。演習科目という特性上、定期試験は実施しません。					
評価基準	授業に出席するのみならず積極的に参加し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解した者はその程度に応じて「S」または「A」、不足がある者はその程度により「B」または「C」とし、出席、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、所定の出席要件を満たさない場合などは「F」とします。					
その他	<p>遅刻や欠席は本人にとって非常に不利となります。時間厳守で、積極的・主体的に授業に参加して下さい。疑問や問題を抱えている場合は、そのことを恥ずかしがらずにさらけ出すことが大切です。</p> <p>※G 刈：法【必修】 刈【必修】 情【必修】 / EF 刈：法【必修】 刈【必修】 経【必修】</p>					